

# 確定給付企業年金の業務概況

## ① 給付の種類ごとの標準的な給付の額及び給付の設計

### 老齢給付金

#### ◆受給資格◆

加入者期間10年以上かつ60歳以上の資格喪失者

#### ◆標準的な給付設計◆

	年齢(歳)	勤続期間(年)	金額(千円)
年金	60	38	169
一時金	60	38	2,921

### 脱退一時金

#### ◆受給資格◆

加入者期間3年以上で資格喪失

#### ◆標準的な給付設計◆

	年齢(歳)	勤続期間(年)	金額(千円)
一時金	32	10	616

### 遺族給付金

#### ◆受給資格◆

年金 なし  
一時金 加入者期間3年以上で死亡、または、老齢給付金受給者の死亡。

#### ◆標準的な給付設計◆

年金 なし  
一時金 脱退一時金に準じた額

## ② 加入者の数及び給付の種類ごとの受給権者の数

(平成30年3月31日現在)

#### ◆加入者数◆

2,997 人

#### ◆受給権者数◆

受給者	1,349	人
待期者	248	人
合計	1,597	人

## ③ 給付の種類ごとの給付の支給額その他給付の支給の概況

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

老齢給付金 (年金)	1,349 件	100,661 千円
老齢給付金 (一時金)	47 件	39,752 千円
脱退一時金	107 件	23,750 千円
遺族給付金	28 件	10,385 千円
合計	1,531 件	174,548 千円

## ④ 掛金の額、納付時期その他掛金の納付の概況

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

#### ◆掛金納付額◆

標準掛金	188,563,744 円
特別掛金	0 円
リスク対応掛金	0 円
特例掛金	0 円
合計	188,563,744 円

#### ◆納付時期◆

標準掛金を毎月翌月末までに納付をしています。

標準掛金 :	毎月末日現在における加入者標準給与月額合計額×1.6%
特別掛金 :	設定しておりません。
リスク対応掛金 :	設定しておりません。
特例掛金 :	設定しておりません。

⑤ 積立金の額と責任準備金の額及び最低積立基準額との比較  
その他積立金の積立ての概況

確定給付企業年金制度では、毎年「継続基準」「非継続基準」による財政検証が実施されます。年金資産の積立基準が不十分と判断された場合は、掛金増額が必要となります。

【継続基準】 → 検証日時点で「責任準備金」（年金制度が保有すべき積立金の金額）と「年金資産」を比較し、主として、将来的な財政の健全性を検証します。

【非継続基準】 → 検証日時点で「最低積立基準額」（加入者等に最低限保全すべき給付の現価相当額）と「年金資産」をそれぞれ比較し、仮に制度が終了すると仮定した場合、加入者および受給者に対して、過去期間に見合った給付を行えるだけの積立金を有しているかどうかを検証します。

平成●●年度の積立水準 (金額単位：千円)

【継続基準】 1.05 倍 (基準値・・・1.00倍以上)

$$\text{純資産額} \div \text{責任準備金} = \frac{2,522,043}{2,380,889} = 1.05 \%$$

【非継続基準】 1.19 倍 (基準値・・・1.00倍以上)

$$\text{純資産額} \div \text{最低積立基準額} = \frac{2,522,043}{2,113,325} = 1.19 \%$$

➡ 継続基準・非継続基準とも基準を満たしています。

用語説明

純資産額	年金資産の額。流動資産および固定資産（時価）の合計額から、流動負債および支払備金の合計額を控除した額のことです。
責任準備金	将来の年金給付のために現時点で保有しておかなければならない金額です。
最低積立基準額	基準日時点で確定給付企業年金制度が解散した場合に、加入者や受給者等の最低保全給付(過去の勤務期間に応じた給付額)を確保するために必要な額です。

⑥ 積立金の運用収益又は運用損失及び資産の構成割合  
その他積立金の運用の概況

◆資産別残高及び資産構成割合◆

(単位：百万円、%)

	国内債券	国内株式	外国債券	外国株式	一般勘定	短期資産	その他資産	合計
残高	1,415	337	140	332	0	53	0	2,277
構成割合	62.1	14.8	6.2	14.6	0	2.3	0	100

(その他資産の内訳)

	ヘッジファンド	不動産	プライベート エクイティ	コモディティ (商品)	その他	合計
時価総額	0	0	0	0	0	0

(区分表)

種類	内容
ヘッジファンド	ファンド・オブ・ヘッジファンズ、株式マーケットニュートラル、株式ロング・ショート、債券アービトラージ、C/Bアービトラージ、グローバルマクロ、イベントドリブン、マルチストラテジー、その他のヘッジファンド
不動産	国内不動産私募ファンド、海外不動産私募ファンド、国内REIT、米国REIT、グローバルREIT（米国以外の単一国REITを含む。）、その他の不動産
プライベート・エクイティ	ベンチャー・キャピタル、バイアウト、ディストレスト、その他のプライベート・エクイティ
コモディティ（商品）	商品ファンド、その他のコモディティ
その他	ハイールド債、CLO、CDO、インフラストラクチャー、保険リンク証券、マネージドフューチャーズ、その他のオルタナティブ、その他の投資商品

◆運用機関別資産残高◆

(単位：百万円)

信託銀行	資産合計	生命保険会社	資産合計
りそな銀行	2,277	なし	2,277

◆本年度の運用状況◆

本年度の運用状況は、  
資産運用利回りは 3.84 % 運用収益 91 百万円となりました。

## ⑦ 運用の基本方針について

### ◆運用目的◆

規約に定めた年金たる給付及び一時金たる給付の支払いを将来にわたり確実にを行うため、必要とされる総合収益の下振れリスクなどに留意しつつ、長期的に確保することを目的としています。

### ◆運用目標◆

年金財政上の予定利率、各運用資産毎の市場における収益率（ベンチマーク）及び各運用資産毎のベンチマークを資産構成割合に応じて組み合わせた収益率（複合ベンチマーク）を長期的に上回ることを目標としています。

### ◆資産構成についての方針◆

基本となる投資対象資産の期待収益率、同収益率の標準偏差、同収益率間の相関係数及び当制度の成熟度、財政状況等を考慮した資産構成を採用し、必要に応じて見直しを行います。

(単位：%)

	国内債券	国内株式	外国債券	外国株式	一般勘定	短期資産	その他資産	合計
構成割合	62.0	14.0	7.0	14.0	0.0	3.0	0.0	100.0

## ⑧ その他確定給付企業年金の事業に係る重要事項

特になし

※本資料に関するお問い合わせ先 西日本電気工事企業年金基金 TEL 06-6313-4931